

## 2022年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年8月10日

上場会社名      オーウイル株式会社      上場取引所 東  
 コード番号      3143      URL    https://owill.co.jp  
 代表者      (役職名) 代表取締役社長      (氏名) 伊達 一紀  
 問合せ先責任者      (役職名) 常務取締役管理本部長      (氏名) 青柳 あゆみ      TEL 03-5772-4488  
 四半期報告書提出予定日      2021年8月10日      配当支払開始予定日      —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無      : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第1四半期の連結業績 (2021年4月1日~2021年6月30日)

#### (1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第1四半期	7,556	—	355	177.8	354	152.1	244	172.0
2021年3月期第1四半期	7,391	△13.7	127	△43.0	140	△44.9	89	△52.5

(注) 包括利益      2022年3月期第1四半期      228百万円 (112.2%)      2021年3月期第1四半期      107百万円 (△12.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第1四半期	77.59	—
2021年3月期第1四半期	28.53	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第1四半期の売上高については、当該基準等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第1四半期	10,570	3,405	31.6
2021年3月期	10,093	3,318	32.2

(参考) 自己資本      2022年3月期第1四半期      3,338百万円      2021年3月期      3,254百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	45.00	45.00
2022年3月期	—				
2022年3月期(予想)		0.00	—	45.00	45.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2022年3月期の連結業績予想 (2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	27,500	—	630	17.2	640	16.1	420	21.0	133.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

「収益認識に関する会計基準」等を2022年3月期の期首から適用しており、上記の連結業績予想の売上高については当該基準等を適用した後の金額となっており、対前期増減率は記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規一社（社名）－、除外一社（社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

詳細は、添付資料P7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期1 Q	3,150,000株	2021年3月期	3,150,000株
② 期末自己株式数	2022年3月期1 Q	304株	2021年3月期	304株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年3月期1 Q	3,149,696株	2021年3月期1 Q	3,149,696株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	5
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結会計期間より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しております。そのため、当第1四半期連結累計期間における経営成績に関する説明は、売上高については前第1四半期連結累計期間と比較しての増減額及び前年同期比(%)を記載せずに説明しております。

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による景気の悪化から一部持ち直しの動きが見られたものの、変異株の感染拡大により経済活動が再び停滞するなど厳しい状況となりました。

当社グループの主力マーケットである食品飲料業界においては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、新しい生活様式に応じたマーケティングが求められております。また、消費者の健康志向や節約志向がより鮮明になっていることから、多様なニーズに応じた事業戦略が求められており、経営環境は大きく変化しております。

このような状況のもと、当社グループは「お客様に十分ご満足のゆく商品・サービスの提供」を品質方針として、安心かつ安全な商品を提供することを第一に品質管理体制の強化を図り、お客様のニーズに合わせた安定的な供給の継続及びサービスの向上に努めてまいりました。既存事業の深耕ならびに環境事業の拡販に注力し、主力カテゴリーである食品副原料、農産物加工品の販売数量が増加したことや環境ビジネス関連の大型シーリングファンの成約件数が増加したことにより、当第1四半期連結累計期間の売上高は7,556,334千円(前年同期は7,391,595千円)となりました。また利益面においては、物流経費や展示会の出展費用が増加したものの、売上総利益が前年に比べ大幅に増加したことにより、営業利益は355,463千円(前期比177.8%増)となり、経常利益は354,130千円(前期比152.1%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は244,381千円(前期比172.0%増)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

## &lt;卸売事業&gt;

飲料市場においては、新型コロナウイルス感染拡大により、外出自粛や在宅勤務など、消費者のライフスタイルが変化していることに加え、コンビニエンスストアや量販店などで販売競争が激化していることから、厳しい経営環境が続いております。

このような状況下、当社グループは取引先の多様なニーズに対応すべく、国内外から安全で安心な原材料・資材を確保し、安定供給体制の維持に努め既存取引先のサービス向上と新規商材の開発・販促に注力してまいりました。主力カテゴリーであるビタミンCなどの食品副原料、茶類や果汁などの農産物加工品の販売数量が前年同期に比べ大幅に回復いたしました。また、大型シーリングファンの需要は引き続き高く、好調に推移したことから、卸売事業の売上高は7,542,108千円(前年同期は7,386,318千円)となりました。

## &lt;製造販売事業&gt;

美味しさと素材にこだわった高品質で体にやさしいアイスクリームの開発に注力し、製造技術の向上、品質管理の強化に努め、取引先のニーズに合った商品を提供してまいりました。新規顧客先からの受注に加えて、主要顧客先からの注文が前年同期の大幅減少から回復したことにより、業務用バルクアイスやPB商品の受注が増加いたしました。以上の結果、製造販売事業の売上高は168,066千円(前年同期は112,332千円)となりました。

(注) セグメントの売上高には、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末に比べ487,243千円増加し、9,068,523千円となりました。主な要因は、受取手形及び売掛金、商品および製品の増加によるものであります。また、当第1四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末に比べ10,752千円減少し、1,501,673千円となりました。

この結果、当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ476,491千円増加の10,570,196千円となりました。

② 負債の状況

当第1四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末に比べ308,863千円増加し、5,502,339千円となりました。主な要因は、買掛金の増加によるものであります。また、当第1四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末に比べ80,517千円増加し、1,662,665千円となりました。主な要因は、長期借入金の増加によるものであります。

この結果、当第1四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べ389,380千円増加し、7,165,005千円となりました。

③ 純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ87,110千円増加し、3,405,191千円となりました。主な要因は、利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2021年5月10日に発表いたしました数値から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,910,313	1,362,190
受取手形及び売掛金	4,039,959	4,785,450
商品及び製品	1,435,627	1,656,570
未着商品	793,496	818,615
原材料及び貯蔵品	27,770	40,666
未収入金	102,690	151,527
その他	276,022	258,503
貸倒引当金	△4,600	△5,000
流動資産合計	8,581,279	9,068,523
固定資産		
有形固定資産	400,305	406,624
無形固定資産	3,572	4,744
投資その他の資産	1,108,548	1,090,303
固定資産合計	1,512,426	1,501,673
資産合計	10,093,705	10,570,196
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	3,815,883	4,102,866
1年内返済予定の長期借入金	792,405	783,693
未払金	159,238	176,881
未払法人税等	82,962	100,072
賞与引当金	43,712	23,400
その他	299,275	315,425
流動負債合計	5,193,476	5,502,339
固定負債		
長期借入金	1,498,213	1,576,226
資産除去債務	1,723	937
その他	82,211	85,502
固定負債合計	1,582,148	1,662,665
負債合計	6,775,625	7,165,005
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	363,387	363,387
資本剰余金	292,475	292,475
利益剰余金	2,278,850	2,381,494
自己株式	△259	△259
株主資本合計	2,934,453	3,037,098
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	281,087	268,163
繰延ヘッジ損益	7,726	2,960
為替換算調整勘定	30,882	30,731
その他の包括利益累計額合計	319,696	301,856
非支配株主持分	63,930	66,235
純資産合計	3,318,080	3,405,191
負債純資産合計	10,093,705	10,570,196

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
売上高	7,391,595	7,556,334
売上原価	6,746,822	6,657,444
売上総利益	644,772	898,890
販売費及び一般管理費	516,812	543,426
営業利益	127,960	355,463
営業外収益		
受取配当金	2,468	2,505
受取手数料	1,581	1,581
受取補償金	—	104
為替差益	5,317	—
補助金収入	4,749	3,245
その他	1,401	3,288
営業外収益合計	15,518	10,725
営業外費用		
支払利息	2,220	2,086
支払補償費	779	0
為替差損	—	9,971
その他	0	0
営業外費用合計	3,000	12,057
経常利益	140,478	354,130
税金等調整前四半期純利益	140,478	354,130
法人税、住民税及び事業税	45,125	94,443
法人税等調整額	4,677	12,967
法人税等合計	49,803	107,410
四半期純利益	90,675	246,720
非支配株主に帰属する四半期純利益	823	2,339
親会社株主に帰属する四半期純利益	89,851	244,381

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
四半期純利益	90,675	246,720
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	20,877	△12,923
繰延ヘッジ損益	△971	△4,765
為替換算調整勘定	△2,733	△184
その他の包括利益合計	17,172	△17,873
四半期包括利益	107,848	228,846
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	107,563	226,541
非支配株主に係る四半期包括利益	284	2,305



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、顧客との約束が財又はサービスを他の当事者によって提供されるように手配する履行義務である場合には、代理人として純額で収益を認識しております。

この結果、従前の会計処理と比較して、当第1四半期連結累計期間の売上高及び売上原価は759,325千円減少しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金期首残高に与える影響はありません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	卸売事業	製造販売 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,350,854	40,740	7,391,595	—	7,391,595
セグメント間の内部 売上高又は振替高	35,463	71,591	107,055	△107,055	—
計	7,386,318	112,332	7,498,650	△107,055	7,391,595
セグメント利益又は損 失(△)	151,819	△25,182	126,637	1,323	127,960

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額1,323千円は、セグメント間取引消去1,323千円であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	卸売事業	製造販売 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,483,193	73,140	7,556,334	—	7,556,334
セグメント間の内部 売上高又は振替高	58,914	94,926	153,841	△153,841	—
計	7,542,108	168,066	7,710,175	△153,841	7,556,334
セグメント利益	352,558	3,292	355,850	△387	355,463

(注) 1. セグメント利益の調整額△387千円は、セグメント間取引消去△387千円であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。